

平成28年度病虫害発生予察特殊報第1号

平成28年(2016年)8月3日
山口県病虫害防除所

1 害虫名 : ヨツモンカメノコハムシ (*Lacoptera quadrimaculata* (Thunberg))

2 発生作物名 : サツマイモ

3 特殊報の内容 山口県で初発生

4 発生経過

(1) 発生確認月日 : 平成28年6月30日

(2) 発生地域 : 光市、柳井市

(3) 発生状況

光市のサツマイモにおいて、葉を食害するハムシの成虫と幼虫を確認した。採集した成虫の同定を神戸植物防疫所に依頼した結果、ヨツモンカメノコハムシと確認された。

また、光市及び柳井市のノアサガオにおいて、葉を食害する本虫を確認した。

(4) 他県での発生状況等

本種は、主に沖縄本島以南に分布していたが、近年、鹿児島県、宮崎県、静岡県、東京都、愛媛県で特殊報が発表されている。

5 本虫の特徴

(1) 被害の特徴

植物の葉のみを食害し、円形～不定形の穴の食害痕を残す。幼虫は葉裏から食害する(図1、2)。

サツマイモについては、地中のイモは食害しない。

(2) 形態

成虫はやや扁平な楕円形で、体長7.5～9.0mm。体の中央部はやや艶のある茶褐色、周縁部は半透明で黄褐色で鞘翅の前方と後方の縁に黒褐色の大型斑紋がある(図3)。

幼虫は、扁平な紡錘形で、体の周囲にトゲ(樹枝)状突起を有し、背面に脱皮殻や糞を背負う(図4)。

(3) 生態

本種はサツマイモ、ノアサガオ等のヒルガオ科の植物に寄生する。



図1 サツマイモの食害痕



図2 ノアサガオの食害痕



図3 成虫



図4 幼虫

6 防除対策

- (1) ノアサガオが有力な増殖源と考えられるため、サツマイモほ場周辺のノアサガオは処分する。
- (2) サツマイモ（イモ）における防除薬剤は、スミチオン乳剤（1000倍、収穫7日前まで、5回以内）、コテツフロアブル（2000～4000倍、収穫前日まで、2回以内）、アクセルフロアブル（1000～2000倍、収穫前日まで、3回以内）である。
- (3) サツマイモ（葉柄）における防除薬剤は、アグロスリン水和剤（1000倍、収穫7日前まで、2回以内）であり、サツマイモでの登録もある。
- (4) 葉を観察して本虫と考えられる食害を見つけた場合は、虫を見つけ次第捕殺する。